

### 第Ⅲ章 「全体計画の中間取りまとめ」に対する 県民意見の聴取等

## 第Ⅲ章 「全体計画の中間取りまとめ」に対する県民意見の聴取等

### ●これまでの経緯

2012（平成24）年度、「普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ検討委員会」において、「跡地利用計画」の策定に向けた中間的な成果となる「全体計画の中間取りまとめ（委員会案）」の提言が取りまとめられた。

この委員会案をもとに、「普天間飛行場跡地利用計画策定審議委員会」において、「全体計画の中間取りまとめ」の策定に関する審議がなされ、2013（平成25）年3月、沖縄県及び宜野湾市により「全体計画の中間取りまとめ」が策定された。

### ●目的

本章の目的は、「全体計画の中間取りまとめ」について、県民、市民、地権者等にわかりやすく情報提供するためのツール制作（PRパンフレット及びコマーシャルフィルム）を行うものである。

また、制作したツールを活用し、沖縄県内の各種イベントや集客施設等において展示ブースを設置して県民・市民・地権者及び県外等へ周知活動を行うとともに、答えやすいアンケート等を実施して広く意見聴取等を行う。

### ●「全体計画の中間取りまとめ」に対する県民意見の聴取等の基本方針

- ・「全体計画の中間取りまとめ」の内容を広く県民・市民と共有し深めていくこと
- ・県外や海外を含む企業、投資家をはじめとした多くの関係者への認知度を高めて機能導入や投資誘導を図ること

この2つの目的を計画案作成時から事業化まで長期的な視点に立ち持続的に実施する事が重要であると考える。

そのため、プロモーションについては視認性、持続性、速報性、そして県民・市民・地権者へ訴求する機会を設けるといったポイントを念頭にそれぞれの効果を発揮できるアイテムを準備し、また各々が有機的に連動しながらより一体的な展開を行うことにより最大限の効果が生まれるようなスキーム（仕組み）を構築する。

本年度は、このスキームのベースを構築し、次年度以降は検証、改良を加えながら深化させていくことをプロモーションの基本方針とした。

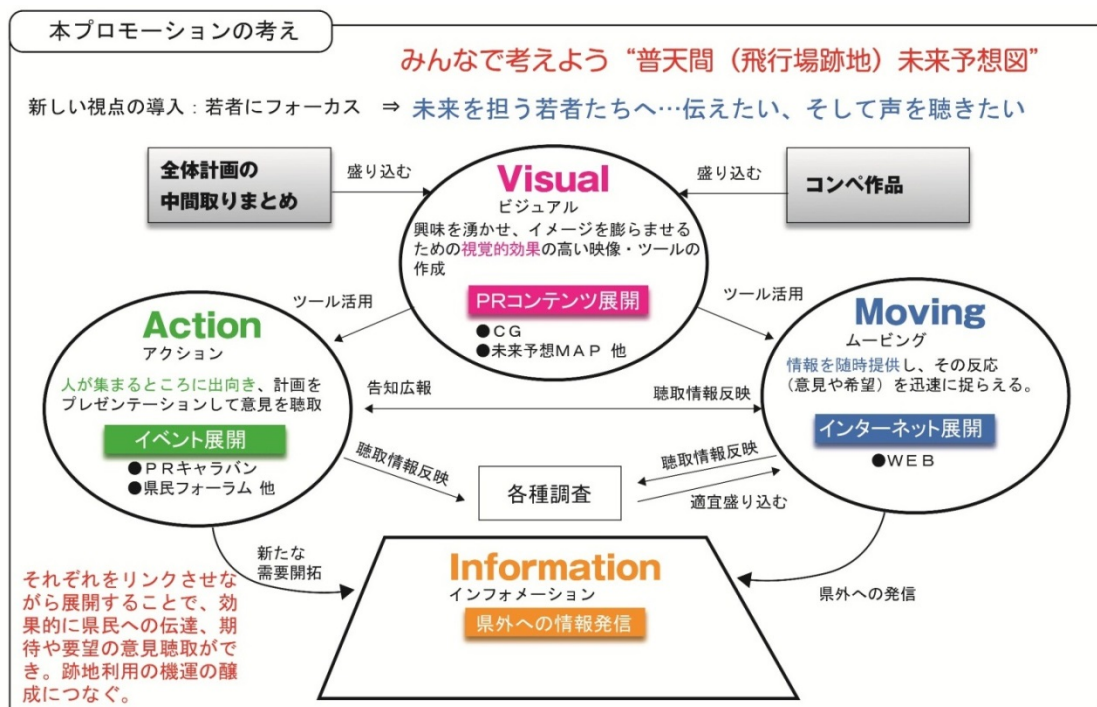
●「全体計画の中間取りまとめ」に対する県民意見の聴取等の進め方

当調査業務においては、周知及び意見聴取を行うために、以下に留意した。

■ねらい

- ・「全体計画の中間取りまとめ」の認知と理解を促進させる。
- ・県民に解りやすい情報発信方法で飛行場跡地利用への気運の醸成を深めていく。
- ・計画の進捗や熟度に応じた情報を伝達し、認知と理解を促進させる。
- ・子供たちから高齢者まで多くの世代に関心と興味をもってもらえるよう視覚的にわかりやすい手法で伝えることを心がける。
- ・2013（平成 25）年度は県民・市民・地権者・企業と幅広いターゲットに対して「全体計画の中間取りまとめ」の認知と理解を促進し、次の段階からターゲット（地権者、県民、企業など）ごとに内容のメリハリや違いをつけて伝えていく。

●PRプロモーションのスキーム



●2013（平成 25）年度の展開

前述の考え方に則って基礎（ベース）づくりをおこなった。各施策とも今までとは違った視点で、より県民の目線や企業や投資家の誘導を考慮した展開とした。

次年度以降も 2013（平成 25）年度の展開方針のもと、実施していくことが本計画の広く県民や県外への認知及び理解促進につながるものと考えられる。

●2014（平成 26）年度以降の展開案

計画づくりから事業化に向けて長い時間を要するため、継続的な情報発信を行い、持続的な関心及びリレーションを保持する。そして、今後、より効率的に意見聴取ができる仕組みや参加型の方法により、まちづくりへの関心を深めていく。

●PRプロモーション展開の流れ

2013（平成25）年度－2014（平成26）年度 【計画内容の具体化】

- ターゲット ・オールターゲット （県民、市民、地権者、企業）
- 手法及び具体的展開案
  - ・映像、リーフレットなどビジュアルで分かりやすく伝える
  - ・フォーラムやキャラバンなどアクションを起こし、「中間取りまとめ」を包括的に理解してもらうための直接触れ合う場を用意する
  - ・県外からも広く関心を持ってもらえるようインターネットの展開や企業動向などを把握するためにも情報の随時提供・発信に心がけていく
- 内容に関する留意点
  - ・「全体計画の中間取りまとめ」を理解しやすいように総括する
  - ・細かな内容には踏み込まない

2015（平成27）年度－2016（平成28）年度 【計画内容の具体化】

- ターゲット
  - ・ターゲットを細分化 ①県民、市民 ②地権者 ③企業
- 手法及び具体的展開案
  - ・映像はターゲット別に内容の深度を加えていく
  - ・リーフレットは主に県内での使用を想定するが内容は計画の熟度に合わせたものに改訂する
  - ・県民フォーラム、県外フォーラムは、より具体性のあるテーマや内容について意見交換を交わす場とし、密度の濃い意見等を抽出する
  - ・県内におけるプロモーションで、積極的に計画推進に協力してくれるファシリテーターの発掘につなげる
  - ・海外からの関心も集められるようなイベントの検討
- 内容に関する留意点
  - ・計画の熟度に応じたものを盛り込む
  - ・映像においては内容をより掘り下げたものや追加資料、最新の情報を盛り込む

2017（平成29）年度以降 【計画内容の深化】

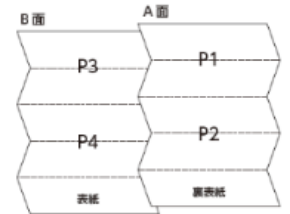
- ターゲット
  - ・細分化されたターゲット ①県民、市民 ②地権者 ③企業
- 手法及び具体的展開案
  - ・映像はターゲット別に内容の充実を図り「全体計画の中間取りまとめ」から跡地利用計画までの集大成を一覧できるようにする
  - ・リーフレットは大きく方向性を変えて事業紹介中心の内容で構成し、パンフレットとしての性格を強めていく
  - ・県外フォーラムにおいては具体的かつ実現度の高い内容を伝えそれに興味を持つ1次開発、2次開発企業からの投資意欲につなげる場とする
  - ・県内フォーラムでは計画によってどのようなエリアマネジメントが必要でかつ人的資源が活かされる場になるかを議論していく場とする
- 内容に関する留意点
  - ・詳細かつ専門的な内容も盛り込む

## 1. 県民向けレポート（PRパンフレット）及びコマーシャルフィルムの作成

県民・市民・地権者等に興味を湧かせ、イメージを膨らませるための視覚的効果の高いPRパンフレット及びコマーシャルフィルムの制作を実施した。

### （1） 県民向けレポート（PRパンフレット）

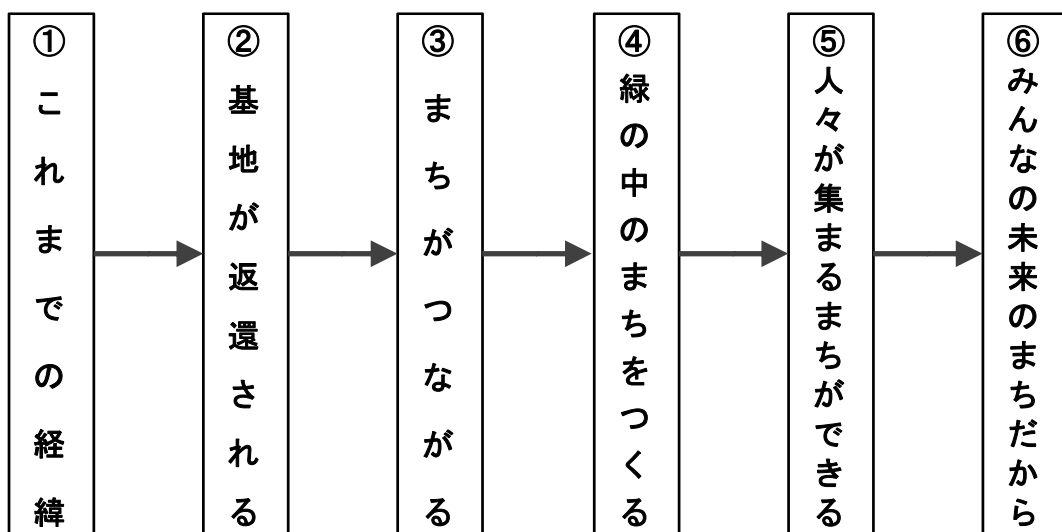
- ・ 沖縄県内の各種イベントや集客のある施設等において配布を考え、受取りやすく、配りやすい ポケットサイズの形態とする。
- ・ 絵本をめくるように見やすい ジャバラページ構成とする。
- ・ 通常パンフレットでは情報量が限定されるため、より詳細な情報はWEBへ誘導を図る。
- ・ イメージを膨らませるための視覚的効果として、事例写真やコンペ作品で紹介
- ・ 多くの世代に関心と興味をもってもらえるよう親しみやすいイラストキャラを適切に配置する。



### （2） コマーシャルフィルムの作成

- ・ 将来図をより解りやすいイメージで伝えるために、前述のPRパンフレット以上の写真やイラストを使用し視覚的効果を与える。
- ・ 「全体計画の中間取りまとめ」の象徴となる2か所の街並みを、アイレベルによるイメージCGで制作。
- ・ コマーシャルフィルムは、項目ごとにチャプター分けを行う事で他媒体でも使用可能な構成とする。

### （3） 県民向けレポート（PRパンフレット）及びコマーシャルフィルムの構成



### 1) これまでの経緯

1996（平成8）年SACOの最終報告において、普天間飛行場の全面返還が合意されてから、「普天間飛行場跡地」利用について沖縄県と宜野湾市は共同で学識経験者地権者、県民、市民、関係機関と一緒に考え、2013（平成25）年3月「全体計画の中間取りまとめ」として発表した。

【PRパンフレット】



【コマーシャルフィルム】



### 2) 基地が返還される

沖縄本島中南部では基地返還跡地で新しいまちづくりが進められており、跡地を有効に活用し大きな経済効果が生み出されている。

これから返還が予定されている跡地と、さらに発展する都市機能とあわせて、各地の跡地開発が都市として広がり、都市がつながり、中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想として高度な都市機能を持つ100万都市圏に発展する。

【PRパンフレット】



【コマーシャルフィルム】



### 3) まちがつながる

中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想の中心となる、普天間飛行場跡地利用の「全体計画の中間取りまとめ」を紹介。

【PRパンフレット】

まず「まちがつながる」をイラストとイメージCGを用いて表現。

南北につながる「中部縦貫道路」、東西につながる「宜野湾横断道路」とまちとまちがつながる「公共交通システム（鉄軌道）」そして、海の水と緑、周辺の水と緑がつながり、地域全体が緑と道でつながれた都市になる。



【コマーシャルフィルム】



### 4) 緑の中のまちをつくる

「緑の中のまちづくり」をイラスト、写真、イメージCGを用いて表現。

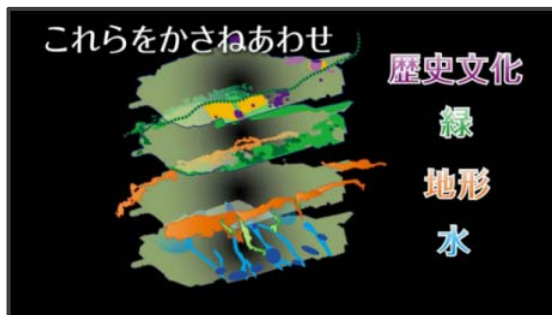
普天間飛行場跡地には、自然や歴史・文化の資源が残っている。

地下を調べ水の道を活かし、起伏のある地形を活かし、歴史や文化を再発見し、残っている緑を活かし、これらを重ね合せ、大規模公園を中心とした特色のある環境「緑の中のまち」を生み出す。

【PRパンフレット】



【コマーシャルフィルム】



### 5) 人々が集まるまちができる

「人があつまるまち」をイラストと写真を用いて表現。

沖縄の自立的発展につながる「振興拠点ゾーン」

人が集う 快適で魅力的な都市をつくる「都市拠点ゾーン」

沖縄の気候風土に合った風景と生活環境をつくる「居住ゾーン」と

昨年実施した、「基地返還跡地利用計画提案コンペ」の受賞作を紹介。

【PRパンフレット】



【コマーシャルフィルム】



### 6) みんなの未来のまちだから

最後に「みんなの未来のまち」をテキスト、ナレーションと写真で表現。

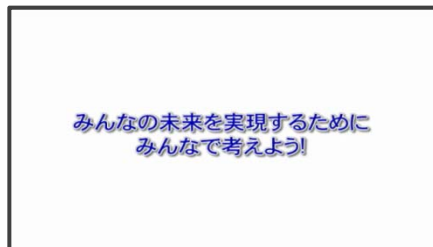
これからも、基地跡地利用については、皆さんの声を聞き、関係機関と協力しながら「沖縄21世紀ビジョン」に沿って計画が進んでいく。

地権者・市民・中学生や小学生など様々な世代が基地跡地利用について、具体的に行った活動を写真で紹介。

【PRパンフレット】



【コマーシャルフィルム】



### 7) イメージCG

「全体計画の中間取りまとめ」の象徴となる2か所を抽出し、街並みのイメージCGを制作する事で、基地跡地利用への気運の醸成を深めていく。





## 2. イベント等での広報活動及び意見聴取

### (1) PRキャラバン

宜野湾市産業まつり及び宜野湾市内の商業施設に出向き、PRコンテンツボードを使ってアンケートイベントを実施。

PRパンフレットの内容を抜粋して巨大ボードを作成、イベント会場にて市民より「全体計画の中間取りまとめ」に対する意見を聴取する。

#### 【PRコンテンツボード】



#### 【①宜野湾市産業まつり会場でのPRキャラバンの様子】



【②サンエー・コンベンションシティ店でのPRキャラバンの様子】



(2) PRキャラバン2会場での市民意見集計結果

「全体計画の中間取りまとめ」の計画の骨子にあたる部分について、幅広い年齢層へ理解を促せるようイメージ図や漫画などを多く用いたパネルボードを掲示。また、10代から60代以上を4グループに区切って気に入った計画内容に対して色分けしたシールを貼るアンケートを実施したが、県民の関心は高く、宜野湾市産業まつりとサンエー・コンベンションシティ店の2会場で合計約300名の回答を得た。その集計結果を以下に示す。全体的に、県民の反応は「緑を活かす」や「歴史や文化を活かす」、「水の道を活かす」といった計画の着目点に興味を示す結果となった。また、「まち全体が緑の公園」というコンセプトに対しても各年代の方々に多く支持を受け、「東西南北へ延びる交通ネットワーク」についても多くの支持を集めた。各年代の多くの県民にシール貼りの協力をしてもらった結果を見ると、「全体計画の中間取りまとめ」の計画内容を知らしめると同時に今後、普天間飛行場跡地利用について関心や興味を引く機会を県民へ提供できたものと考えられる。

【パネルボードへの年代別シール貼りの結果】

■ 宜野湾市産業まつり・サンエー・コンベンションシティ店のパネル展示集計結果

○自然と歴史の資源が残っているところだから...

1) 緑を活かす	産業まつり	サンエー	計
10代	42	9	51
20～39歳	44	13	57
40～59歳	73	14	87
60歳以上	86	5	91
計	245	41	286

2) 歴史や文化を活かす

10代	24	5	29
20～39歳	31	9	40
40～59歳	79	12	91
60歳以上	77	5	82
計	211	31	242

3) 地形を活かす

10代	18	2	20
20～39歳	29	8	37
40～59歳	47	7	54
60歳以上	33	4	37
計	127	21	148

4) 水の道を活かす

10代	20	5	25
20～39歳	36	12	48
40～59歳	59	14	73
60歳以上	80	5	85
計	195	36	231

○こんなまちにしようと考えています

1) まち全体が緑の公園	産業まつり	サンエー	計
10代	23	6	29
20～39歳	46	14	60
40～59歳	61	14	75
60歳以上	72	5	77
計	202	39	241

2) まちとしての機能

① 産業を生み出す

10代	25	4	29
20～39歳	29	8	37
40～59歳	45	8	53
60歳以上	44	4	48
計	143	24	167

② 都市をつくる

10代	7	4	11
20～39歳	15	8	23
40～59歳	38	9	47
60歳以上	35	4	39
計	95	25	120

③ 住まいをつくる

10代	6	2	8
20～39歳	15	10	25
40～59歳	33	8	41
60歳以上	40	3	43
計	94	23	117

○東西南北に延びる交通ネットワーク

	産業まつり	サンエー	計
10代	18	1	19
20～39歳	49	7	56
40～59歳	70	7	77
60歳以上	59	5	64
計	196	20	216

### 3. コンペ作品の分析

本項では、日本復帰 40 周年記念事業の一環として 2012(平成 24)年に実施された「沖縄の新たな発展につなげる大規模基地返還跡地利用計画提案コンペ (以降、「コンペ」とする)」に応募された全 79 作品を対象に、跡地利用に対する期待や要望を検証し、跡地の有効かつ適切な利用を推進するため、各作品の提案内容について分析し、開発シナリオ構築の基礎資料を作成した。

#### (1) コンペ実施概要

コンペの実施概要を以下に示す。(コンペ HP より抜粋)

##### 開催趣旨

日本復帰 40 周年記念事業の一環として、「沖縄の新たな発展につなげる大規模基地返還跡地利用計画提案コンペ」を開催することといたしました。

沖縄本島中南部は、狭小な地域の中に、政令指定都市に匹敵する人口 100 万人以上の高密度な都市を形成しています。しかし、市街地内に位置する広大な基地の存在は、長期にわたり、望ましい都市形成や交通体系の整備、産業基盤の整備など、地域の振興発展を図るうえで、大きな障害となってきました。

このような状況の中、2006(平成 18)年の日米安全保障協議委員会 (SCC) において、嘉手納飛行場より南の 6 基地、合計 1,000~1,500ha の大規模な基地の返還が合意されました。この基地跡地は、沖縄の新たな発展のための貴重な空間であり、沖縄本島中南部都市圏の都市構造の歪(ひず)みを是正し、県土構造の再編にもつながる大きなインパクトを持っています。

そのため、県では、この大規模跡地利用を沖縄の振興発展につなげるべく、広域的な観点から各跡地の開発の方向性を示した「中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想 (案)」を昨年度末に取りまとめました。今後は、この構想からより有効で具体的な計画へと前進させていく必要がありますが、本コンペにより、多方面から未来の可能性を展望した計画案を募り、これからの跡地利用計画の策定における参考として活用していきたいと考えています。

世界に誇れる魅力ある中南部都市圏の形成、ひいては沖縄全体の発展へ向けて、多くの皆様から優れたご提案を頂けますよう期待しています。

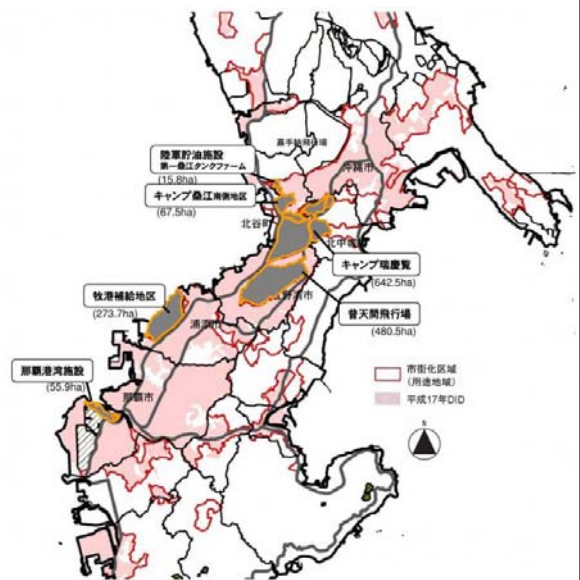


図 3-1 対象地域

(2) コンペ結果

コンペの結果は以下のとおりである。

応募数：79件（県内51件、県外28件）。

一次入選作品：15作品

二次提案作品：5作品（最優秀賞・優秀賞・佳作）

表 3-1 一次入選作品及び二次入選作品

	作品タイトル	作品提案者
最優秀賞	万国津梁の島(くに)－新しい沖縄の実現	トラム&グリーン・リンケージ沖縄21
優秀賞	”麗しの海の邦”と”まちづくりマネジメント”	日本設計+泉設計
	アジアの成長を呼び込み、域内産業を形成する沖縄新社会資本戦略的整備	琉球大学都市計画研究室有志
佳作	沖縄が目指すべき『アジアにひらかれた成熟地域社会』を実現する10の提案！	鎌田誠史+山岸豊
	記憶が残る街・住み続けられる街・寄り道したくなる街	金城正紀
入選	東・東南アジアの要としての沖縄の礎となる自然と人にやさしい街づくり	株式会社片平エンジニアリング
	『琉球回廊／沖縄の自然と歴史から未来へつなぐ道』	富山義則
	「琉球グリーンライフ創出プロジェクト」沖縄の誇り高い自立と自活を目指して	株式会社 緑の風景計画
	「まちづくり信託公社」を中心とした跡地利用計画の提案	幸喜敦
	開発から修復へ ～つながりのあるまちづくり～	株式会社徳岡設計
	まざって ひろがる OKINAWA	SOKKINS
	琉球森城(リュウキュウムイグスク)を創る	Urban Innovators Japan
	「おきなわふるさと再生機構」のしごと	鈴木雅和
	持続可能な開発 沖縄再生プロジェクト	有限会社チーム・ドリーム
	OKINAWAN SCALE～沖縄島の『身の丈まちづくり』～<東南アジアに開かれた亜熱帯島嶼沖縄の島スケールにあったまちづくり>	有限会社 MUI 景画
	「持続的新都市軸創出のために」～21世紀のメッセージ駅・OKINAWAをめざして～	グループエコライフ
	アジアのゲートウェイ = 創造的環境都市「OVAL CITY」～自然豊かな環境都市づくりを通じて、世界の叡智が集積し育成される環境模範都市の実現～	オリエンタルコンサルタンツ&UR リンケージ&インタープラン
	万国乃律梁 アジアは沖縄で世界と交わる	関西大学環境都市工学部建築学科都市設計研究室
	水と共に棲む都市 川と湧水と緑の再生	宮良香央利
	回復の際	東京大学都市デザイン研究室

### (3) キーワードの抽出及び分類

コンペには計 79 作品の応募があり、審査の結果、一次審査通過（20 作品）、二次選定通過（5 作品）に作品の絞り込みがされた。

キーワードの抽出及び分類に当たっては、まず評価の高かった一次審査通過作品（20 作品）を対象に、将来の開発シナリオ構築のアイデアとなる提案内容について整理を行った。

次に、「全体計画の中間取りまとめ」で謳われている整備方針や整備メニュー等との関係を整理し、整備実施の重要度を判断する参考資料として取りまとめた。

最後に、その他の作品を含めて提案内容を整理した。

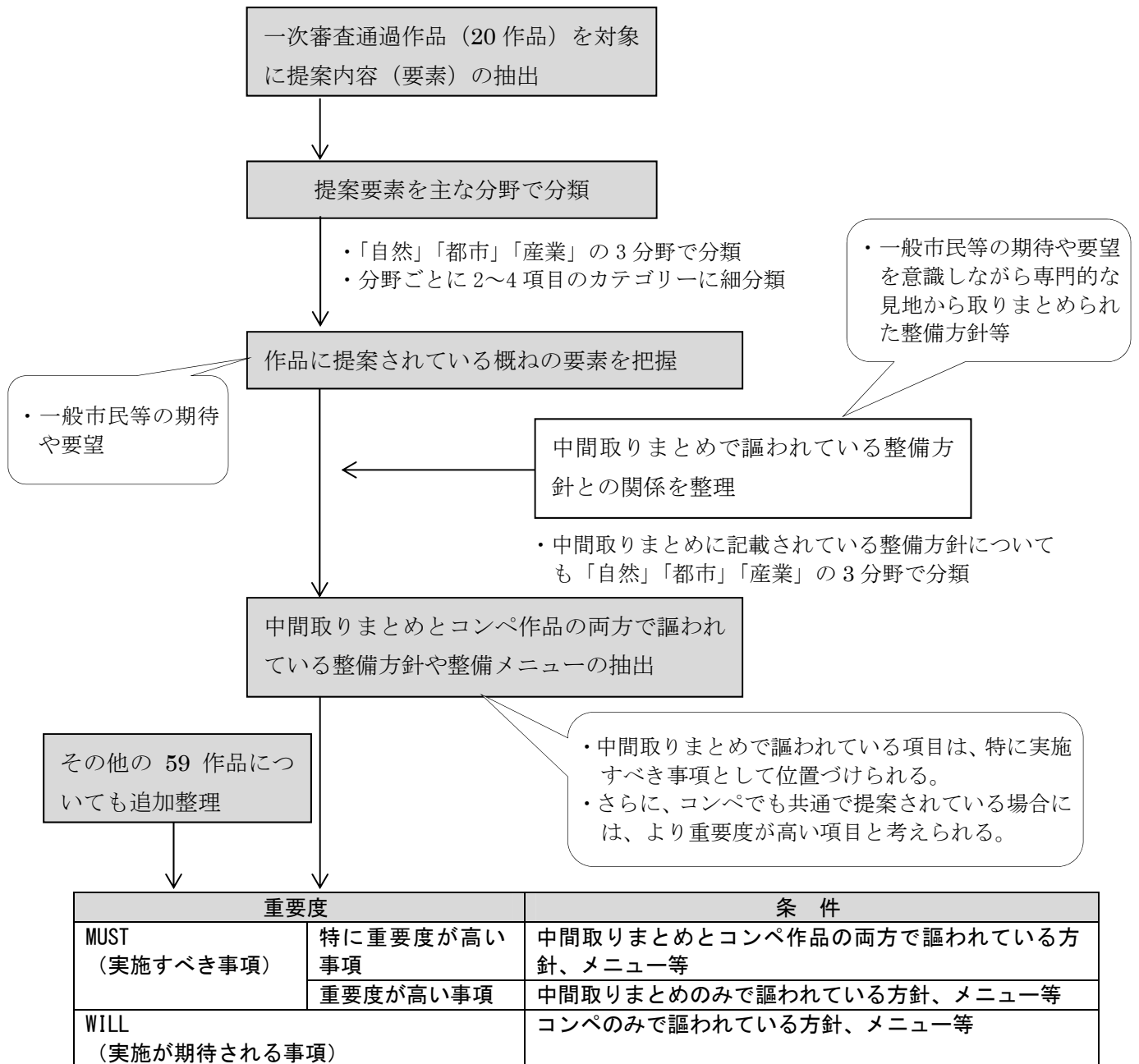


図 3-2 キーワード抽出整理の検討フロー

### 1) コンペ入選作品の主な提案要素

コンペ上位 5 作品を含む一次審査通過作品（20 作品）について、主な提案要素を整理した。整理に当たっては、大きく①自然、②都市、③産業 の 3 分野で整理を行った。

また、普天間基地の跡地利用計画における重要ポイントとして挙げられる「(仮称) 普天間公園の整備」「旧集落の再生」「並松街道の再生」については、上記 3 分野とは別に、提案内容を整理した。

黄色…「中間取りまとめ」にも共通して記載されている提案 無色…「中間取りまとめ」には記載されていない提案例



図 3-3 入選作品の主な提案要素

2) コンペ上位 5 作品の総括

コンペ上位 5 作品の提案内容を以下のとおりに整理した。

なお、各作品の提案書及びそのポイントは参考資料を参照のこと。

表 3-2 コンペ上位 5 作品の総括

課題			
経済的な自立	第 3 次産業中心の産業構造の改善／「雇用機会の創出」と「失業率の改善」／付加価値産業の振興と県民所得の向上		
中南部都市圏の環境改善	自動車依存からの脱却／行政・交通機能など那覇への一極集中の改善／基地による街の分断と密集市街地の解消／都市内の緑地空間の回復と充実／エネルギー自給率の向上		
国際社会との関係性	国際ハブ港湾等の国際的な大規模社会基盤整備／グローバル経済に影響されない多角的な社会システム		
基地跡地の適正利用	既存市街地との関係性や中南部都市圏全域での位置付け／長期的な住宅供給過多に対する、都市の秩序ある縮小／産業・経済発展と環境保全のアンビバレントな関係構築		
将来を見据えた計画	計画段階から維持・管理段階まで一貫した取組み／地域社会像の目標やテーマの共有／地元住民が計画段階から自己決定権をもつような自立的な地域社会の構築		
全体			
位置付け	中心都市（“リージョナルコア”や“州都”）として、現在の那覇に一極集中する行政機能や中央業務の移転集約が期待されている		
基本方針	自然（緑・水脈等）の保全とともに既存市街地や幹線道路と連続する緩衝緑地・並木道を前提とした、周縁と縦横方向への緑のネットワーク化		
機能	研究開発・MICE 拠点／医療福祉・健康産業／大規模公園を中心とした歴史文化交流拠点		
その他	※優秀賞①についてはアグリビジネスを普天間飛行場・キャンプ瑞慶覧・桑江地区一帯の核となる産業としており、農業を中心とした提案がなされている		
	自然	都市・交通	産業
「全体計画の中間取りまとめ」との共通事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>貯水池や溜池等の涵養により、緑のコリドーやネットワークを形成することで地下水脈や地形の保全、及びまとまった緑地の確保が望まれている</li> <li>周辺市街地を含めた緑の連続による生態系の再生を期待するものが多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低炭素エネルギー・パッシブ建築を用いたスマートグリッド・コミュニティといった地域内／都市全体でエネルギー循環を目標とするものが多い</li> <li>跡地内への私立学校の誘致や駅前への商店街や中央図書館の配置などより具体的なものが見られる</li> <li>鉄軌道や幹線道路による広域交通網の確保、及び既存市街地との連続が求められている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究機関・企業の誘致に関する提案が多く、その他医療福祉産業、農業を推進するものが見られる</li> <li>大学・企業と連携した国際的・先進研究機関を跡地内に誘致し、あわせて国際学会やシンポジウムなどを開催する MICE 施設の整備が期待されている</li> </ul>
その他の期待・要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>フクギ（沖縄の伝統的住宅を囲む防風林・防潮林の役割を果たす樹木）の植林システム</li> <li>ビオトープや市民農園など地域活動を促す緑地</li> <li>植物を用いた環境浄化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>LRT を提案するものも多く、いずれもパーク＆ライドやモノレールとの連携など既存交通網との円滑な運行が求められている</li> <li>トランジットモール導入</li> <li>大山タイモ地域一部 IT 化</li> <li>伝統的建築様式「雨端」をモチーフとした街路形成</li> <li>共同駐車場や「路地（スージグァー）」による容積緩和や防犯促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療福祉産業については、先端医療技術の集約やがん検査・治療等のツアー化などが提案されている</li> <li>農業に関しては IT を導入した高付加価値農作物による沖縄版フードバレーや伝統的な農法や食文化を子供達や来訪者に伝えるエコファームの運営が提案されている</li> </ul>
個別計画			
	（仮称）普天間公園	旧集落	並松街道
「全体計画の中間取りまとめ」との共通事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね自然・歴史・文化を活用した公園整備が提案されている</li> <li>広域防災拠点としての整備が期待されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5 作品とも旧集落の再生が提案項目にある</li> <li>概ね歴史・文化資源を活かした伝統的な集落景観の再生を期待している</li> <li>歴史文化の体験・宿泊といった観光施策とあわせた提案が見られる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5 作品とも並松街道の再生が提案項目にある</li> <li>王朝時代、間切番所・馬場といった歴史的観点を重要視している</li> <li>公園・緑道・緩衝緑地との関係に着目した景観づくりが求められている</li> </ul>
その他の期待・要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然体験型のテーマガーデンや琉球文化のオープンシアター、博物館といった具体的な利用が提案されている</li> <li>農地付大規模公園</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かつて地縁や農業の営みの中でつくられた集落規模に沿ったエネルギーコミュニティの形成、エコ居住システムの構築など、居住を想定している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>並松街道に沿ったエネルギーロードの導入と旧集落再生によって構成されるエネルギーコミュニティを関連付けた提案が見られる</li> </ul>



### 3) 提案事項の分析

全79作品についても提案内容をカテゴリー毎に分類した(参考資料参照)。

カテゴリーごとに整理した提案内容等のキーワードについて、必要性(期待、要望等)の観点で重要度を設定し、「MUST(やるべきこと)」と「WILL(やりたいこと)」にランク付けを行った。

#### ①MUST(やるべきこと)の位置付け

- ・全体計画の中間取りまとめで謳われている事項については、既往検討結果や学識者等の専門的な知見を踏まえて必要と判断されてきた事項であり、必要性が高い事項として「MUST」に位置付けられる。
- ・MUSTの中でも、両者(コンペ提案と中間取りまとめ)で共通事項は、特に必要性が高い事項として位置付けられる。

#### ②WILL(やりたいこと)の位置付け

- ・コンペ提案のみに記載されている事項は、一般市民等からの期待、要望事項として、必要性や実現性等を考慮して積極的に実施することが望まれる事項として「WILL」に位置付けられる。

#### ③分野を跨る事項の重要性

- ・各分野であげられるキーワードの中でも分野を跨って共通の事項は、特に重要度が高い事項として位置付けられ、優先的に実現性の検討を行うことが望まれる。

表 3-3 提案事項のランク

大分類	中分類	自然	都市	産業	普天間公園	旧集落	並松街道													
MUST	水環境	再生水の利用 ・水資源の再生 ・国営公園による文化財、湧泉の保全	汚染水の地下浸透の防止 ・小川川や排水路の水質改善 ・田手畑における畜糞の継続	緑	緑のネットワーク ・緑の増殖 ・大規模公園整備 ・新しい交通システム	都市構造	周辺市街地との一体的な空間の創出 ・県立中央図書館、中学校的の移転	エネルギー	省エネ住宅の導入 ・先進的モデル地域とした総合的な研究を推進	防災	地下空洞の保全 ・活用	まちづくり	「直野湾」の生い立ちが見えるまちづくりを目標 ・ユニバーサルデザインと「足元人口」の確保 ・来訪者の誘致を目標としたゆとりある敷地の供給、コミュニティづくり、緑豊かな環境づくり等を重視した住宅地開発 ・「戦略的通信コスト削減化支援事業」や「沖繩国際情報通信基盤整備事業」の活用	雇用創出・失業対策	国際レベル級の研究機関を擁した高機能リゾートパークの整備 ・新産業リサーチパークの整備	付加価値産業	・国際レベル級の研究機関を擁した高機能リゾートパークの整備 ・新産業リサーチパークの整備	・災害時の広域防災拠点としての機能 ・琉球時代の史跡残る森林公園	・旧集落の地権者や新しい来住者を誘い、今日の生活利便を確保しつつ、伝統的な集落空間の委や民族文化の再生のあり方	・並木沿いに「マートビレッジ」形成 ・100mの幅員道路 ・普天間宮への並松参詣道歴史的景観の回復
	緑	緑のネットワーク ・緑の増殖 ・大規模公園整備 ・新しい交通システム	跡地と周辺道路の連携にむけたインフラ整備 ・市街地環境、景観等への配慮	都市構造	周辺市街地との一体的な空間の創出 ・県立中央図書館、中学校的の移転	エネルギー	省エネ住宅の導入 ・先進的モデル地域とした総合的な研究を推進	防災	地下空洞の保全 ・活用	まちづくり	「直野湾」の生い立ちが見えるまちづくりを目標 ・ユニバーサルデザインと「足元人口」の確保 ・来訪者の誘致を目標としたゆとりある敷地の供給、コミュニティづくり、緑豊かな環境づくり等を重視した住宅地開発 ・「戦略的通信コスト削減化支援事業」や「沖繩国際情報通信基盤整備事業」の活用	雇用創出・失業対策	国際レベル級の研究機関を擁した高機能リゾートパークの整備 ・新産業リサーチパークの整備	付加価値産業	・国際レベル級の研究機関を擁した高機能リゾートパークの整備 ・新産業リサーチパークの整備	・災害時の広域防災拠点としての機能 ・琉球時代の史跡残る森林公園	・旧集落の地権者や新しい来住者を誘い、今日の生活利便を確保しつつ、伝統的な集落空間の委や民族文化の再生のあり方	・並木沿いに「マートビレッジ」形成 ・100mの幅員道路 ・普天間宮への並松参詣道歴史的景観の回復		
WILL	LRT水浄化システム	・LRT水浄化システム	・LRT水浄化システム	都市構造	周辺市街地との一体的な空間の創出 ・県立中央図書館、中学校的の移転	エネルギー	省エネ住宅の導入 ・先進的モデル地域とした総合的な研究を推進	防災	地下空洞の保全 ・活用	まちづくり	「直野湾」の生い立ちが見えるまちづくりを目標 ・ユニバーサルデザインと「足元人口」の確保 ・来訪者の誘致を目標としたゆとりある敷地の供給、コミュニティづくり、緑豊かな環境づくり等を重視した住宅地開発 ・「戦略的通信コスト削減化支援事業」や「沖繩国際情報通信基盤整備事業」の活用	雇用創出・失業対策	国際レベル級の研究機関を擁した高機能リゾートパークの整備 ・新産業リサーチパークの整備	付加価値産業	・国際レベル級の研究機関を擁した高機能リゾートパークの整備 ・新産業リサーチパークの整備	・災害時の広域防災拠点としての機能 ・琉球時代の史跡残る森林公園	・旧集落の地権者や新しい来住者を誘い、今日の生活利便を確保しつつ、伝統的な集落空間の委や民族文化の再生のあり方	・並木沿いに「マートビレッジ」形成 ・100mの幅員道路 ・普天間宮への並松参詣道歴史的景観の回復		
	コンベン提案のみ記載されている事項	・LRT水浄化システム	・LRT水浄化システム	都市構造	周辺市街地との一体的な空間の創出 ・県立中央図書館、中学校的の移転	エネルギー	省エネ住宅の導入 ・先進的モデル地域とした総合的な研究を推進	防災	地下空洞の保全 ・活用	まちづくり	「直野湾」の生い立ちが見えるまちづくりを目標 ・ユニバーサルデザインと「足元人口」の確保 ・来訪者の誘致を目標としたゆとりある敷地の供給、コミュニティづくり、緑豊かな環境づくり等を重視した住宅地開発 ・「戦略的通信コスト削減化支援事業」や「沖繩国際情報通信基盤整備事業」の活用	雇用創出・失業対策	国際レベル級の研究機関を擁した高機能リゾートパークの整備 ・新産業リサーチパークの整備	付加価値産業	・国際レベル級の研究機関を擁した高機能リゾートパークの整備 ・新産業リサーチパークの整備	・災害時の広域防災拠点としての機能 ・琉球時代の史跡残る森林公園	・旧集落の地権者や新しい来住者を誘い、今日の生活利便を確保しつつ、伝統的な集落空間の委や民族文化の再生のあり方	・並木沿いに「マートビレッジ」形成 ・100mの幅員道路 ・普天間宮への並松参詣道歴史的景観の回復		

表中 凡例  
 緑文字 : 自然に関する事項  
 赤文字 : 都市に関連する事項  
 青文字 : 産業に関連する事項

#### 4) キーワードの関連性整理と重要要因の整理

分野ごとに整理したキーワードうち中間取りまとめとの関係性がわかる様にマッピングを行い、共通性の高い分野、カテゴリーを整理した。(次ページ参照)

(仮称) 普天間公園を核とすることで、「都市」「緑」「産業」の各分野の開発、並びに各分野間の連携が図られることがわかる。

##### マップ凡例

- ・大文字、色付き文字 : 「MUST」の事項
- ・黒文字 : 「WILL」の事項
- ・矢印 : 関連性の高いカテゴリー (共通のキーワードを整理)